

# 風力発電「商機になる」

再エネシンポ 識者らが指摘  
長崎

海洋再生可能エネルギーの市場動向や実用化に関するシンポジウムがこのほど長崎市内であり、風力発電は「関連メーカーにとってビジネスチャンス」などと

識者らが指摘した。

日本風力発電協会（東京）の上田悦紀氏は「経済発展と環境保護の両立には風力発電の活用が必要」と述べ、コスト面や雇用確保などの経済発展と環境保護の観点から世界各国で施設が増加傾向にあることを紹介した。新規導入量はここ数十年で15倍以上となっており、特にヨーロッパ諸国は年間電力供給の10%以上を風力発電で賄っていると説明。年間電力需要と化石燃料の輸入依存度が極めて高い日本は「風力産業育成の長期ビジョンを計画するべき」と主張した。

京都大学の安田陽特任教授は「日本では、再生可能エネルギーに関する必要な情報が不足している」と指摘。洋上風力発電の実用化には海底ケーブル整備

日本のさらなる風力発電導入を訴える上田氏

＝長崎市築町、メルカトさまち



といったコストがかかるが「本来、日本企業にとって有利な分野。メーカーにとってビジネスチャンスになる」と呼び掛けた。

シンポは長崎海洋産業クラスター形成推進協議会などが主催。同協議会の会員企業の関係者ら約120人が聴講した。（野崎英人）